



スーパー耐久シリーズ2010 第7戦  
 「MOTEGI SUPER TAIKYU OVAL BATTLE」

開催日：2010年11月26日・27日

コース：ツインリンクもてぎ

天候：予選決勝・晴

路面コンディション：(予選)ドライ (決勝)ドライ

チーム：KYOSHOアリスモータース ランサーX

ドライバー：田ヶ原章蔵 / 岡本武之 / 白坂卓也

観客動員数：4300人

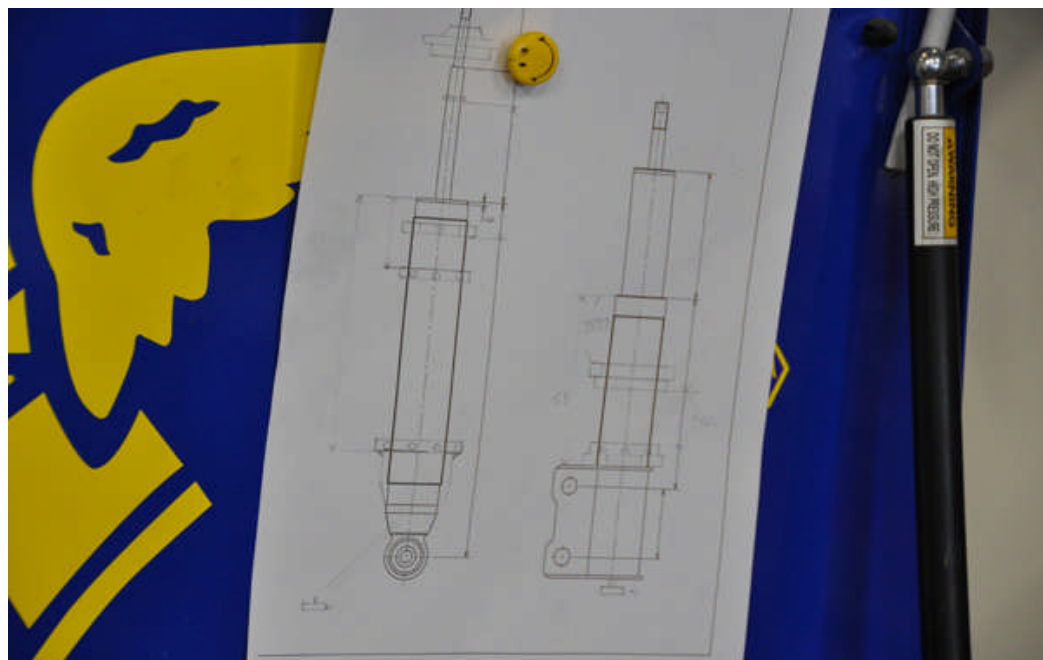


ツインリンクもてぎは栃木山間部に位置し、STAFF・関係者は防寒を意識した装備で現地に向かいました。身を刺す肌寒さとは裏腹に、チームのモチベーションは、前仙台戦よりも熱く、最終戦を来年度への足がかりにするべく準備万端で本戦を迎えました。また、最終戦という事と首都圏より比較的近いサーキットという事もあり、スポンサー様各位含め、多くのゲストの方々にお越し頂けることのご連絡を頂き、ホスピタリティスタッフも張り切ってこの日を迎えました。

## ■ フリー走行 11月26日

KYOSHOアリスモータース初のオーバル戦であり、また、オーバルサーキットの走行初のBドライバー-Cドライバーの入念な練習走行が行われましたが2名とも持ち前のセンスでキャリアの無さは払拭。しかしマシントラブルの発生オーバル特有の横Gでサスペンションの一部が壊れている事が判明した為、急遽午後の走行を中止しました。

応急処置の為、近隣の工場にメカニックが持ち込みをし補強対策を施し、無事明日の予選決勝を迎える事が出来る次第となりました。メカニックの車両に対するチェック目の厳しさと機転によりトラブルを回避する事が出来ました。

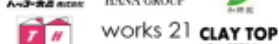


## : CarNO.505 予選タイム

ドライバー：田ヶ原章蔵 TIME：0'54"434

岡本 武之 TIME：0'55"530

白坂 卓也 TIME：0'54"038



## ■ 公式予選 10月27日

前日のトラブル回避によりあとはドライバーに委ねる事になった予選。  
 9:50 路面コンディションドライ。Aドライバー田ヶ原選手より公式予選走行開始。予選通過基準タイム0'57"571に対して**0'54"434**にて通過。  
 10:35 Bドライバー岡本選手出走。赤旗中断等混乱はあったが通過基準タイム0'57"571に対し**0'55"530**と好タイムで難なく予選を通過。  
 10:45 白坂選手によるCドライバー公式予選。**0'54"038**。  
 よって総合順位14位。決勝出走台数25台中12番グリッドからの出走となりました。



## ◆ 予選総合タイム順位結果

- 1:CarNO.3 エンドレス・アドバン・コルトスピードX TIME:1'42"881
- 2:CarNO.20 RSオガワ・アドバン・ランサー TIME:1'44"463
- 3:CarNO.30 森永チルミルRSオガワADVANランサー TIME:1'45"803

-----  
**7:CarNO.505 KYOHSOアリスモータース**  
 TIME:1'49"964



## ■ 決勝 スタート12:33

決勝のコンディションは曇りに変わり、一層寒さが増してまいりました。決勝は1回戦と2回戦に分かれており、1回につき2名のドライバーで走行を行います。1回戦のドライバーはBドライバーの岡本選手→Cドライバー白坂選手で行いました。岡本選手ベストラップを0'55"659とし24週の周回後、白坂選手にバトンを渡します。白坂選手によるベストラップ0'54"111と猛烈なPUSHで1回戦を11位にて完走。この時点で2回戦のドライバーは未定でしたが、インターバル後、さらなる挑戦と可能性をかけてベテラン田ヶ原選手先攻に白坂選手後攻という作戦で行くことを決定した。抜きどころの少ないオーバル戦だが、ベストラップ0'54"289というタイムとともに抜群のシケインでのコントロールでカバー。チャンスは幾度か訪れたものの、やはりストレートスピードの遅さも相成りものにする事はできず24周にて白坂選手にバトンを渡す。白坂選手に至っても、猛プッシュで他車を追走するもののチャンスは巡ってこず。終盤車両のトラブルが発生し、メンテナンス中にチェッカーとなる。白坂選手ベストラップ0'54"004。総合21位と悔しい結果に終わった。しかしながら、来年度への確実な手ごたえと課題を残し本年度のレースを終える事が出来ました。来年度もぜひご声援賜れますようよろしくお願い申し上げます。



- |             |                     |           |
|-------------|---------------------|-----------|
| 1: CarNO.3  | エンドレス・アドバン・コルトスピードX | 45'18.184 |
| 2: CarNO.26 | エンドレス・アドバン・ウェッズランサー | 45'25.389 |
| 3: CarNO.20 | RSオガワアドヴバンランサー      | 45'42.693 |

5:CarNO.505 KYOHSOアリスモータース  
42LAP 40'20.563



## ■星名 功一 チーム代表

2010年最終戦を終えて、まずはここまで応援して頂きました企業様・ファンの皆様にチームを代表しましてお礼申し上げます。残念ながらシーズンをチェッカーフラッグで終えることはできませんでしたが、この続きは来シーズンの楽しみとして取っておいて頂ければ幸いです。我々が戦っている“LANCER EVO X”は、三菱ワークスが撤退したことでポテンシャルはあるとわかりつつ他チームも避けて通っている最新型のマシンであります。特にEVO X本来の電子デバイスシステムをフルで搭載しているマシンは、我々の“KYOSHOアリスモーターズEVO X”だけです。今シーズンは電子デバイスも含めたデータ収集の期間という意味も含めて後半3戦に参戦しました。その環境の中、ドライバー3名とメカニック・スタッフ全員がそれぞれの役割や目標を掲げて地道にかつ確実に戦ってくれたことによって有意義なシーズンとなったと思います。来シーズンはこの経験を基に少しずつではありますが“速さ”を求めていきたいと思っています。ということで来年も今年以上の応援とご支援を宜しくお願い致します。

## ■田ヶ原章蔵選手

凄くがんばりました（笑）。遅い3クラスの車に引っかけながらでしたが、まだまだタイムも詰められてだけに追い上げをもう少しやりたかったです。ですがようやく3戦目にして手ごたえを感じ始めてきてます。これも一重に、ファンの方々、スポンサー各位、パーソナルスポンサー各位、505号車の代表、スタッフさん、メカさん、ドライバーさん、レースクイーンの3人と関わって頂いているすべての方々にお礼と感謝を申し上げます。

## ■岡本武之選手

今回はオーバル初体験だったので面白かったです。マシントラブルでフリー走行が満足に走れずいきなり予選・決勝だったので、お腹いっぱい走ったという感じはないですが、クラッシュもせずに腹八分目で終わったので今はとにかくホッとしています。そしてフリー走行で壊れたパーツを何とか修復しようと頑張ってくれたメカニックには本当に感謝しています。今年は、前半戦を1クラスの9号車で後半戦を2クラスの505号車という形で開幕戦以外の全戦に乗ることが出来たので楽しい1年でした。ドライバーとしてどこまで成長できたかは怪しいものですが、チーム関係者だけでなく他のチームやドライバーの方々及び全てのレース関係者の皆様には本当にお世話になりました。来年またスーパー耐久に出たいとは思っていますが、僕の場合それが決して簡単なことではないので、12月、1月と頑張っておそらく来年も何らかの形でスーパー耐久に出場出来るように頑張りたいと思います。

## ■白坂卓也選手

自分にとっては初めてのオーバルだったので知る前は不安な部分も沢山ありましたが、走り始めから凄く楽しむ事ができ、良いタイムで走る事が出来ました。

決勝ではエンジンパワーが足りず、まだトップチームとの差はありましたが、コーナリングスピードの進歩は間違いなくアピール出来たと思います。今回は2レースとも出させて頂いた事で、自分としても収穫はたくさんあったので、そのような判断をしてくださった田ヶ原選手、岡本選手を始め、チームスタッフの方々にも感謝しています。そして、今季の参戦を支えてくださったたくさんのスポンサー様、ファンの皆様、一年間応援ありがとうございました。